



未来の米作りを支える新品種 「えみまる」

農業研究本部

背景・目的

- ・生産者の高齢化や労働力不足が進む中で、規模拡大に対応した省力的な米生産技術が求められている。タネを直接田んぼに播く直播（ちよくはん）栽培は、育苗作業が不要で最も効果的な省力技術として、道内での栽培面積が令和2年（2020年）には約2,700haとなっている。
- ・水稻の生育可能期間が短い北海道において、直播栽培による米生産は移植栽培に比べ不安定であり、直播栽培を普及拡大させるためには、安定生産可能な品種が求められていた。

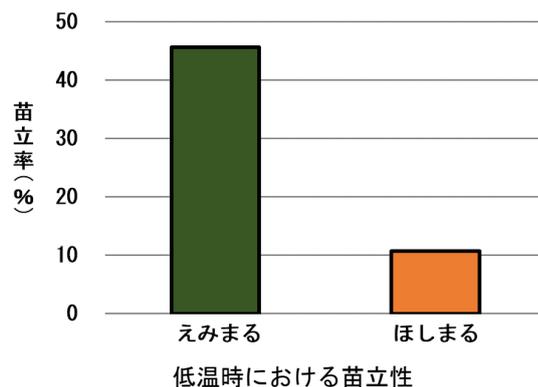


播種作業の様子

成果

北海道米の安定生産に貢献しうる新品種「えみまる」を平成30年（2018年）に育成

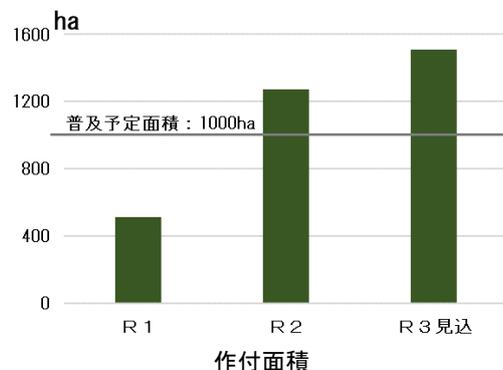
- ・「えみまる」は、これまでの「直播栽培」向け品種「ほしまる」に比べ、①タネを播いた後の芽の出る能力（苗立性）に優れている、②病気に強い、③コメの見た目がきれい、④収穫量が多いなどの長所があり、安定生産に適する。
- ・味は、現在、北海道米で最も多く作られている良食味品種「ななつぼし」とほぼ同等で、美味しい。
- ・コンビニ弁当などの「中食」やレストランなどの「外食」等の業務用途に対する適性は、冷めても硬くなりにくい、丼物のタレ通りが良いなど、「ほしまる」を上回っている。



成果の活用

開発当初の目標面積をすでに上回る作付で一般家庭用販売も好調

- ・令和元年（2019年）から一般栽培された「えみまる」は生産者からの注目度も非常に高く、令和2年（2020年）の作付で育成当初の目標面積1,000haを上回り、令和3年（2021年）にはさらに広がる見通しである。
- ・令和元年（2019年）産は、令和2年（2020年）の春から一般家庭用にも販売され、秋には新米も出回り、好評を得ている。



<関連論文・特許など>

【1】出願品種の名称：えみまる，出願番号：第33323号，出願公表日：2019.2.26

問い合わせ先：農業研究本部 上川農業試験場 研究部 水稻グループ (TEL:0166-85-4115)

